

スタジアムを中心としたまちづくりの研究

A Study on the possibility of forming an attractive community around a stadium therein

1K04B101-1

佐野 有希

指導教員

主査 原田宗彦先生

副査 木村和彦先生

序論

高度経済成長による都市の変容の流れを受けて、「まちづくり」が注目されるようになった。まちづくりではそのまちの魅力や共通イメージが必要となるが、近年その魅力の要因にスポーツを用いるケースが増えてきている。埼玉スタジアム2002がある浦和美園エリアでは現在「みそのウイングシティ構想」という名のもと区画整理事業が行われ、新しいまちが生まれようとしている。

みそのウイングシティは埼玉県、さいたま市、都市再生機構で進められており、埼玉県が所有および運営を行う埼玉スタジアム2002も地域住民のコミュニケーションの場を提供する形でこの構想を後押ししている。この構想では、①埼玉スタジアム 2002 周辺において、スポーツ・文科交流活動拠点の形成②浦和美園駅周辺において、生活支援・地域福祉の向上に資する地域の交流活動拠点の形成③水や緑等の自然環境と調和した街の形成④美しく安全で快適な住宅市街地の形成、という 4 つの基本方針のもと整備が進められているが、現在の町並みは方針とは程遠い状況である。

本研究では、みそのウイングシティと埼玉スタジアム2002を研究対象とし、地域住民へのアンケート調査を交えながら、スタジアムを中心としたまちづくりの可能性を見出すことを目的とする。

方法

- ・ 調査日 : 2007 年 11 月 11 日 (日) および 17 日 (土)
- ・ 調査対象: 埼玉県さいたま市緑区および岩槻区に在住の成人男女 84 人
- ・ 調査場所: イオン浦和美園ショッピングセンター
- ・ 調査方法: 屋外で面接法によるインタビュー調査を実施した。
- ・ 分析方法: SPSS14.0 for Windows を使用し、分析した。

結果・考察

この研究によって導く仮説は以下に示す 2 つである。

- ① 浦和レッズや埼玉スタジアム2002に興味のある人が、この町に住みたいと考える。
- ② 新しくこの町に住んだ人のほうが①の傾向が強く、また構想に対し積極的に情報を得ようとする。

まず、①の考察を行う。浦和レッズを応援していると答えた人は全体の 38% で他チームに比べ最も多い。しかし、応援チームがないと答えた人が 45% いるのも事実である。さらに、 χ^2 乗検定による分析でも、「浦和美園エリアに住んだ理由」と「応援チーム」の関係の導くことができなかった。よって、今回の研究では①の仮説は実証されないことがわかった。

次に②の考察を行う。まず「居住期間」と「応援しているチーム」には分析の結果、関係性は見られなかった。また「浦和美園エリアに住んだ理由」と「居住期間」の χ^2 乗検定からは、居住期間が短い「グループ 2」と理由の選択肢である「みそのウイングシティ構想による新しいまちである」は関係があり、新しく住んだ人のほうが構想について理解した上で、このまちの魅力として構想をとらえていることがわかる。また「構想の認知度」と「居住期間」の分析では、居住期間の短い「グループ 2」は「内容を具体的に知っている」傾向が強く、「全く知らない」人が少ないという結果が導き出された。よって②の仮説は、新住民のほうがみそのウイングシティ構想について積極的に情報を得ている、という点が証明された。しかし、浦和レッズや埼玉スタジアムとの関係は実証できなかった。

まとめ

分析結果からは、現在、浦和レッズや埼玉スタジアム2002がみそのウイングシティの魅力となっていない、という結果が導き出された。しかし、データには反映されなかったものの、やはり浦和レッズのサポーターは多く存在する。また浦和レッズの名称を掲げた駅ビルが計画されていることもあり、一概に無関係だとは言えない。これはつまり、みそのウイングシティ構想が浦和レッズや埼玉スタジアムといった魅力的な資源を活かせていないことを表す。このまちは未だ教育機関の不足など基盤整備が行き届いていない。まずは基本的な街の機能を充実させ、その後、「サッカーのまち・みそのウイングシティ」を作り上げ、新しいまちづくりのモデルプランとなるべきである。以前持ち上がった「レッズタウン構想」は結局立ち消えとなってしまったが、県や市は今一度浦和レッズとの協力体制を検討するべきではないだろうか。そして埼玉スタジアムが住民にとって魅力的であり、誇りであると感じられるようなまちづくりを目指してほしいと思う。